

# 第4回全国路地サミット 2006in 諏訪 報告書

平成19年3月

全国路地のまち連絡協議会

# も く じ

全国路地サミット2006 in 諏訪	
1 目的	1
2 シンポジウム概要	2
3 発表概要	3
1) 基調講演：「辻と小径景観づくり」	3
2) 「向島路地園芸調査」	4
3) 闇市・横丁の研究成果	6
4) 東京都北区十条「路地園芸トライアル」	7
5) 大阪市中央区空堀「空堀の路地再生について」	8
6) 東京都新宿区神楽坂	9
7) 静岡県新居町	10
8) 長野市（善光寺・松代）	11
9) 諏訪市上諏訪街道	12
4 パネルディスカッション「魅力ある路地の創造」	13
1) パネルディスカッション「魅力ある路地の創造」	13
2) 閉会挨拶	21
5 関連イベント	22
1) 上諏訪街道21「上諏訪街道呑みあるき」	22
2) 諏訪路地散歩	23

## 1 目的

全国路地のまち連絡協議会は、平成16年8月に路地をいかしたまちづくりに関心を持つ関連団体及び個人が、その活動を活性化させるための情報交流、路地に関する啓発・普及活動を行うために結成された団体である。結成以来、インターネットによる路地のまちづくりに関する情報提供、関係者の交流や啓発普及のための路地サミットの開催（毎年）、路地園芸の調査、活動などを実施してきた。

このような活動経緯を踏まえ、路地のまちづくり活動の支援、啓発普及を目的とした毎年開催している「全国路地サミット」を、平成18年10月に長野県諏訪市において、下記に示す目的に基づいて開催した。

諏訪市において、今年度新たに「辻と小径景観づくり事業」という、路地のまちづくりを行う市民団体への独自助成事業が整備された。しかしながら、市民一般にはまだ十分その事業の意義や実際のまちづくり活動の方法についての理解が不足していることから、路地のまちづくりの意義やノウハウ及び制度に関する市民への啓発普及を行う。

これまでの活動もあって、路地のまちづくりに関する関心も高まってきている。しかし、多様な取り組み方や解決すべき課題があることから、諏訪市の取り組みとも関連して、今回は「路地の魅力の創造」をテーマとし、そのための方法や活動のあり方について、ノウハウの交流を図ることにより、各路地のまちづくり活動を支援する。

財団法人都市化研究公室平成17年度助成事業により実施した路地園芸プロジェクトは、まさしくこの趣旨に合致するものであることから、その成果の普及を図る。



## 2 シンポジウム概要

- 1) 開催日時 平成18年10月8日(日) 13:30~17:30
- 2) 会場 諏訪市湯小路いきいき元気館3階交流ひろば
- 3) 主催者等 主催 全国路地のまち連絡協議会  
共催 諏訪市  
後援 財団法人 都市化研究公室/NPO法人 日本都市計画家協会
- 4) 主催者挨拶 今井 晴彦氏(協議会世話人)
- 5) 共催挨拶・基調講演  
「辻と小径景観づくり」 山田 勝文氏(諏訪市長)  
「辻と小径景観づくり支援事業」概要説明  
諏訪市まちづくり・男女共同参画推進課、都市計画課
- 6) 路地関連調査発表  
向島路地園芸調査結果 真野 洋介(東京工業大学大学院助教授、協議会世話人)  
闇市・横丁の研究成果 井上 健一郎(ヤミ市横丁研究所、協議会会員)
- 7) 路地のまちづくり報告  
東京都北区十条 高尾 利文氏(十條あすみの会副会長、協議会世話人)  
大阪府中央区空堀 吉野 国夫氏(空堀地区HOPEゾーン協議会、協議会世話人)  
東京都新宿区神楽坂 日置 圭子氏(NPO 粋なまちづくり倶楽部、協議会会員)  
静岡県新居町 馬淵 豪氏(新居関所周辺まちづくりの会)  
長野市(善光寺・松代) 石川 利江氏(ISHIKAWA 地域文化企画室代表)  
諏訪市上諏訪街道 宮坂 春樹氏(上諏訪街道21)
- 8) パネルディスカッション 「魅力ある路地の創造」  
コーディネーター 今井 晴彦氏(協議会世話人)  
パネリスト 山田勝文氏、石川利江氏、日置圭子氏、真野洋介氏、宮坂春樹氏  
順不同
- 9) 総括及び閉会挨拶 小沢 一郎氏(早稲田大学客員教授、協議会世話人)
- 10) 配布資料  
路地サミットプログラム  
辻と小径景観づくり支援事業広報資料  
全国路地のまち連絡協議会紹介資料  
「(仮題)路地からのまちづくり」学芸出版ちらし  
発表資料レジュメ  
参加者名簿
- 11) 関連イベント  
諏訪路地散歩  
JR上諏訪駅~虫湯跡~手長神社~岡村小路~正願寺~八剣神社~教念寺~和田地区路地~  
湯小路~湯小路いきいき元気館  
交流会 平成18年10月8日(日) 18:00~20:00 湯小路区公民館  
上諏訪街道呑みあるき 平成18年10月7日(土) 17:00~19:00

### 3 発表概要

#### 1) 基調講演:「辻と小径景観づくり」山田 勝文氏(諏訪市長)

諏訪市まちの成り立ち

ようこそ諏訪市へ

諏訪

諏訪大社

祭神:建御名方命/御柱:寅・申の年

美しかった日本

ジーボルト報告「こんなに美しい国があったのか！」

自然(しぜん)という言葉のなかった

(自然流(じねんりゅう)はあったが)

景観は明治以降

美しい日本のDNA

行政とまちづくり

一番大きなまちづくりは行政

地方都市のよさ「大都市から田舎へ」

協働のまちづくり

おらほのまちづくり

「自分のまちは、自分で考え、自分でつくろう」

平成13年~17年

一地区500万円 2,000万円×5年 18地区

諏訪市小径の旅

大きな道には歴史があり

小さな道には笑いと涙がある

車をぬいで 歩いてみよう

ポストおらほのまちづくり

小路名の復活

辻と小径の景観づくり

年間1900万円予算

地区設定 3軒以上、2/3以上の同意

一地区 1,000万円以内

修景を主体に費用の5/6を補助(国の事業補助を参考)

景観デザイン委員会

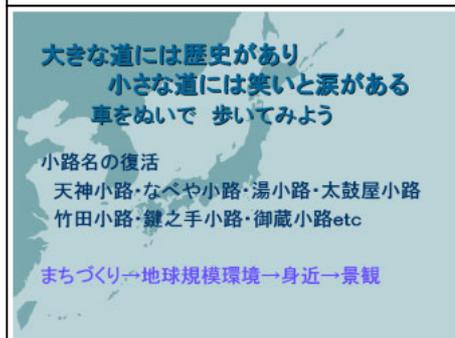
(専門家・建築士会・おらほの役員・まちづくり・・・)



山田市長



おらほのまちづくり「湯の脇一地区」



天神小路

## 2) 「向島路地園芸調査」

真野 洋介氏 (東京工業大学大学院助教授、協議会世話人)

原口 紘一氏 (東京工業大学大学院)

長屋と路地の残るまち (京島、東向島)

20周年を迎えた一寺言問の防災まちづくり

向島博覧会 2000年, 2001年

若いアーティスト転入～空き家の改修

向島学会の設立 (2002年4月, 2006年6月 NPO 認証)

会員約50名、まちのプラットフォーム

向島百花園 200周年にちなんだイベント

「向島 YEAR2004」の開催

「まちづくり会」を中心としたまちづくり活動

さまざまな空き店舗と活用可能性

鳩の街プロジェクト

地域防災まちづくり組織「一言会」と

NPO 向島学会のゆるやかな連携

防災意識や災害リスク調査と一緒に行われた

路地園芸調査

路地園芸とは

「路地園芸」とは辞書には載っていない言葉です。

ガーデニングとは違い、道路に向けて植物を置いて、家に彩りを加えているものです。

それぞれの家庭で好きなように好きなものを植えています。

調査の概要

アンケート調査

現地調査

アンケート調査

園芸をやる理由は、「植物が好きだから」「植物を育てるのが楽しいから」というものが多く、「植物を人に見てもらいたいから」という意見は少数派であった

植物を入手する方法は、お店で買ってくるという回答が76%、知り合いからもらうという回答が34%であった  
育てている植物で多かったのは、

椿、バラ、梅、サザンカ、ラン、アジサイ、楓、みかん、桜、パンジーなどであった

植木鉢で育てている人が87%と最も多く、庭などに路地植えしている人も4割以上いた

一年間に園芸にかかるお金を聞いたところ、5万円以下の回答が6割近くあった



真野洋介氏 / 原口紘一氏



長屋と路地の残るまち (京島・向島)

### 鳩の街プロジェクト

ローカルキッチン  
お店づくり提案コンペ  
向島映画上映  
商店街調査展示の4つのプロジェクト  
合同イベントとして10月に開催



鳩の街プロジェクト

### 調査対象範囲

■「一寺言問防災生活圏」内の旧寺島一丁目地域 (東向島一丁目、三丁目) を対象として実施

■調査地域内を町会の単位や町並みの状況に応じて8区域に分割して調査分析を行った

■現地調査では5本の路地を選定して行った



### アンケート調査

■地区別の回答数は右の通り

区域A	区域B	区域C	区域D	区域E	区域F	区域G	区域H	区域I	無回答
17	25	17	14	19	12	32	18	15	12
9%	14%	9%	8%	10%	7%	18%	10%	8%	7%

■76%が植物を育てていると回答



■路地に面しているとした回答が最も多く、大通りに面しているとの回答は少なかった

園芸をやる上での悩みを聞いたところ、「肥料や土」「虫」「留守にするときの管理」という回答が多かった。気をつけていることについては、「防虫」や「落ち葉等の清掃」が多く、ついで「通路の確保」という回答もあった。植物を育てない理由としては、「植物を育てる場所や植木鉢などが無い」「植物を育てる時間がない」といった回答が多く、「植物が嫌い」と回答したのは2件であった。路地園芸に対する意識は、「よいことだと思う」39%、「やってみたい」27%が多く、「育てていない」人が路地園芸に対して好意的であることがわかった。「迷惑だと思う」と答えたのは5件(15%)であった。

現地調査

全体的に、草花の種類は多様であるが、数種類の草花を効果的に配置し、まとまりのある園芸空間を作りだしている家も見られた。

限られた空間で、最大限の草花を育てようとする苦勞が感じられる。

縁石がある路地については、縁石上に置く鉢などはあるが、比較的、縁石より通路側にはみ出しているものは少ない。縁石がない部分については、通路との境目が不明になっているものが多い。

植え方としては鉢物が多いが、鉢の種類がバラバラで、まとまりを欠くものが多かった。

幅員3m程度以下の路地では、あまり日当たりを気にしないで育つ植物が多い。

現地調査まとめ

路地園芸によって、路地の風景に変化が生じ、路地ごとに違った風景を作り出していることがわかる。

全体として、草花を育てようとする意欲は高いが、路地を彩るという意識は薄いので雑多な印象が残った。

見てもらうための工夫が加われば、路地の中にすばらしい園芸空間が生まれる可能性がある。

**アンケート調査**

■ 区域Hにおいて植物を育てているという回答が他の区域より少なかった

■ 道が狭くなるにつれて育てている人の割合が増えていくことが確認された。

路地園芸調査シート

路地園芸調査シート

■ 全体的に、草花の種類は多様であるが、数種類の草花を効果的に配置し、まとまりのある園芸空間を作りだしている家も見られた。

■ 限られた空間で、最大限の草花を育てようとする苦勞が感じられる。

■ 縁石がない部分については、通路との境目が不明になっているものが多い。

■ 縁石がある路地については、縁石上に置く鉢などはあるが、比較的、縁石より通路側にはみ出しているものは少ない。

■ 幅員3m程度以下の路地では、あまり日当たりを気にしないで育つ植物が多い。

■ 植え方としては鉢物が多いが、鉢の種類がバラバラで、まとまりを欠くものが多かった。

### 3) 闇市・横丁の研究成果

井上 健一郎氏（ヤミ市横丁研究所、協議会会員）

ヤミ市を起源とする横丁

上野「アメヤ横丁」

新宿「思い出横丁」

赤羽「OK 横丁」

ヤミ市の組織化

ヤミ市とは

戦後、物不足のときに自然発生した不法に売買、飲食する市場

分布

主要駅周辺で発生、駅舎周辺に広がる

ヤミ市の形態変化

ヤミ市の発生 露店の発生 長屋式マーケットの発生

吉祥寺「ハモニカ横丁」

吉祥寺北口駅前商店街連合会

建物疎開のため空地・被災なし - ヤミ市が広がるに好条件

武蔵野市開発公社による買収地

諏訪市特産の寒天（天娘）のスイーツのお店が、

ハモニカ横丁に出店

路地・横丁の空間特性

通路と店舗敷地が混同 通路と店舗敷地の境界線を失う

横丁内の一体感が生まれている

路地空間 = 多目的オープンスペース

ハモニカ横丁の現状

マスコミから注目されることにより、再開発への機運が弱まり、現状維持へ

家賃の高騰により店の入れ替わりが激しく、個人経営の店に比べ、チェーン店の進出が多い

吉祥寺駅周辺の特徴

大型百貨店が駅から離れたところに円を描くように立地している。そうすることにより、街全体に人の流れが行き渡っており、大型百貨店と商店街が共存している。

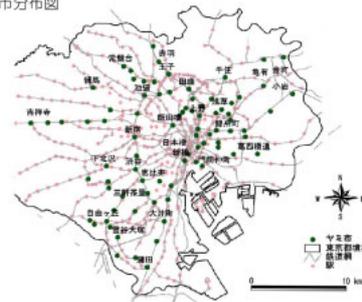
固定資産税・都市計画税の算定の根拠となる公示地価の評価は都心の銀座や表参道周辺の一部地域と同等となっている。

三越のビルを不動産投資ファンドが買収。最近になり、ヨドバシカメラが入ることが決定した。

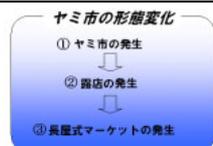


井上健一郎

ヤミ市分布図



ヤミ市の分布



ヤミ市の形態変化

吉祥寺「ハモニカ横丁」



吉祥寺「ハモニカ横丁」を「読む」



武蔵野市史 中巻より

#### 4) 東京都北区十条「路地園芸トライアル」

高尾 利文氏(十條あすみの会副会長、協議会世話人)

あらすじ

十条の路地で

地域の人たちが

ワークショップ方式で

園芸をトライアルしました

トライアルの体制

主催：上十条一丁目西町会、全国路地のまち連絡協議会

後援：十條あすみの会、北区環境課、北区まちづくり公社

指導：(株)グリーンダイナミクス

十条はどんなところ

東京都北区にあって、十条駅と東十条駅に挟まれた下町  
池袋と赤羽に近くても、空き店舗が1つもない商店街があ

る(十条銀座商店街)

篠原演芸場がある、路地がある

第1回ワークショップ「江戸の園芸を知る」

世界の三大園芸文化

葵三代の園芸

身分を超越した広がり

大名の庭園づくり 造園・植木屋 庶民園芸

第2回ワークショップ - 1 「地元の園芸を知る」

まち探検～路地園芸を探す

地元同士で知らない

個人の楽しみにとどまる(雑然としている)

無手勝流(あいまいな知識や思いこみで栽培)

対象路地の園芸を考える～グループ討議

第2回ワークショップ - 2 「路地園芸を考える」

グループに分かれて討議

第3回ワークショップ「路地園芸トライアル」

土をつくる、花を扱うを学ぶ

園芸を実践する

十条の路地について

町会の祭りで、子どもたちのためのレクリエーション会場

まとまった場所がないので、路地を借用

警察より地主さんの了解

神様が通れるくらいの路地幅がちょうどいい

十条の路地でやりたいこと

路地を舞台にした映画をつくりたい



高尾利文氏

#### 2-1 十条はどんなところ

□ 東京都 北区にあって、十条駅と東十条駅に挟まれた下町



ワークショップの様子



ワークショップの成果



2 頂道路後退で神様が通れるようになった

5) 大阪府中央区空堀「空堀の路地再生について」

吉野 国夫氏 (空堀地区 HOPE ゾーン協議会、協議会世話人)

空堀地区の概要

土地利用は住宅地と商業業務地が混在

谷町筋、上町筋など主要道路沿道は高容積の商業系地域

路地の形成史

豊臣秀吉の大阪城外堀 (惣構)

松平忠明による復興市街地開発で、東半分が武家屋敷、西

半分に御用瓦師寺島家の土取跡地 (1630年に拝領)

明治に入り製蠶業がすたれて、裏長屋の借家経営がブーム

に、明治終わりにはすっかり長屋の町へ

路地コミュニティ

1978年ある濃密な路地コミュニティを発見 (1909年に開  
発され、大都市の都心にムラ的な互助システムが定着)

2000年に同じ路地を調査 (濃密なコミュニティの衰退)

大阪の爆発的な人口流入期 (戦争を挟み20~30年間に200  
万人)における大都市都心の路地開発と周辺部の戦前区画  
整理による新興住宅地の大きな違い。

HOPEゾーン協議会の活動 (からほり井戸端会議)

空堀界隈のまちづくり団体、商店街、祭り、福祉NPOな  
どのリーダーが理事となり、地域振興町会代表 (3町会)を  
相談役とする任意の協議会。

まちなみづくりのテーマ

お地蔵さんが見守る つながりを生かすまちなみ

都市再生モデル調査

「地域住民と協働した路地まちづくりによる

豊かな生活空間の保存・再生プロジェクト」

地域住民や行政と一体となり、防災まちづくりも検討し  
ながら、昔ながらのまちなみを残しつつ、路地内建替えを

可能にする方策や建替えモデルを具体的に検討し、

路地まちづくりを実践すること

今後の課題

街区再生と路地ネットワーク

防災まちづくり

路地内の合法的建替えが可能な手法の開発と合意形成



吉野国夫氏

・現在の路地分布図



・お地蔵さん等の分布図 (1978年と2000年の比較 川窪広明)



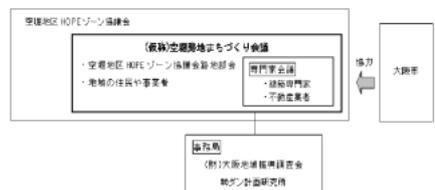
3. 路地コミュニティ・空堀地区のまちなみ資源図



4. HOPEゾーン事業による取組み

・都市再生モデル調査のスタート

■実施体制



## 6) 東京都新宿区神楽坂

日置 圭子氏 (NPO 粋なまちづくり倶楽部、協議会会員)

神楽坂とは

誰もが自分の居心地の良い場所を見つけられる街

一間半の石畳の路地に黒塀・築地塀

江戸の街割りが残る

消費者ニーズに敏感な街 + 伝統と格式を重んじる花柳界

神楽坂の最大の魅力 = 路地 (しつらえの空間)

江戸のもてなし文化や芸能文化が「粋」となる

現役の芸者さん・料亭による風情 (粋、色気)

クラス人の生活の路地でもある

神楽坂地区のまちづくり

平成 3 年「神楽坂地区まちづくりの会」発足

平成 6 年「まちづくり憲章」制定

まちを壊す建設計画とまちづくり活動

平成 10 年頃から大規模開発の波

「街並み環境整備事業」の導入

「まちづくりキーワード集」発行

「まちづくり協定」制定

「NPO 粋なまちづくり倶楽部」設立 (平成 15 年)

包括的なまちの活性化・路地の保全の必要性

東京でもローカルな論理、柔らかなライフスタイル (日常)

を取り戻す

「道は変えないという主張」 = 「路地」の意義・価値を考

える

動態的保全のまち、ハード・ソフトの包括的多方面の活動

による、まちの風情、情緒、文化を守り火世代に伝える

新たな問題発生

東京理科大学キャンパス再構築計画

花柳界地域での 14 階建て高層マンション建築計画



日置圭子氏



神楽坂の路地・横丁



兵庫横丁：物書き旅館「和可菜」前



かくれんぼ横丁



8) 長野市 (善光寺・松代)

石川 利江氏 (ISHIKAWA 地域文化企画室代表)

<エコール・ド・まつしろ倶楽部>

松代とは

真田 10 万石

明治以降、県庁も呼べない、鉄道も通らない

長野町より大きなまちだった

30 年以上前に長野市に合併 まちづくりが進まないまち

松代は色々なものが残っている

合併して松代は、商業や工業などの発展から取り残された

30 以上の武家屋敷 (10 万石なので立派ではない たそが清兵衛)

真田藩の隠居所、松代藩の文武学校 (佐久間象山提案)

日本人が近代以降捨ててきたもの、失ってきたもの

長野市観光プロジェクト 2004 年

善光寺の観光客は毎年 200~300 万人 長くて 1 時間程度しかいない 小布施か須坂 (蔵のまち) に行ってしまう

長野市に観光客を滞留させよう = 松代を何とかしよう

松代気質

「儲かる」「商売の手先」は嫌だ = 観光は嫌だ

「武士は食わねど」といったようなまち

稽古事が盛ん = 男性でもお花を習って方がたくさんいる、謡は昔は必ずやった = 今も多い

エコール・ド・まつしろ倶楽部

急に観光地として... 「見る」「買う」「食べる」という要素を整えることは無理

一つ一つの活動 = 専科は小さな活動 この街にあるものを活かす

文化財ガイド、まつしろ・きもの縁遊会 (着物を着て遊びに来てください)

それぞれの趣味を通じて交流、来てくださったお客様に何かサービスをする

市民が動き出して、自分のまちにプライドを持って、まちに来てくれた方とお話する楽しさ

この 3~4 年で松代の人々の表情が少し明るくなったという気がしている

<善光寺表参道文化村>

善光寺は長野市にとってはパチカンのようなもの

善光寺の中だけで完結している観光地

裏側に駐車場がある = 観光客は善光寺と仲見世だけで、30~40 分で帰ってしまう

善光寺の表参道である中央通りが寂れてしまった

善光寺表参道文化村 文化を中心にして発信していこう

昔の祭りを掘り起こす = 神楽、屋台の復活

中側の小路、水路の復活

善光寺に来た観光客がまちの中を歩いてもらえるまちに



石川利江氏

9) 諏訪市上諏訪街道

宮坂 春樹氏 (上諏訪街道 21)

上町 (かんまち) ~ 清水町

高島城の城下町として現在のまちの形ができた

江戸から明治にかけて甲州街道の宿場町としての機能を

備えた商業地として発展 = 諏訪地方の商業の中心

中央線上諏訪駅開業に伴って、駅前の本町地区に賑わいの

中心は移った

近年の郊外店の出店等々で急速に衰退

上諏訪街道 21

国道 20 号線沿いの上町、桑原町、角間町の 3 町内

山田市長と 3 町内有志が、賑わいを取り戻そうと平成 5 年

に会を発足

表通りの活性化を主眼

事業

上諏訪街道 21 というロゴを入れたプランターを国道 300

m に並べる

まち歩きマップ「ふらっと歩いて……上諏訪街道 21」を、国道 20 号線の裏通りである寺町など地

域との連携を考えながらまちづくり・町おこしをしていこうと製作

古くからの小路名をマップに入れた 現在の小径事業に

平成 7 年、県と市の補助金で小路名の表示を整備

上諏訪街道呑みあるき

3 町内に 5 軒の造り酒屋 = 上諏訪街道 21 のメンバー

5 軒の造り酒屋でいっぺんに試飲ができれば楽しいイベントになる

地元においては競争相手の酒蔵同士が足並みをそろえるのは非常に難しい作業

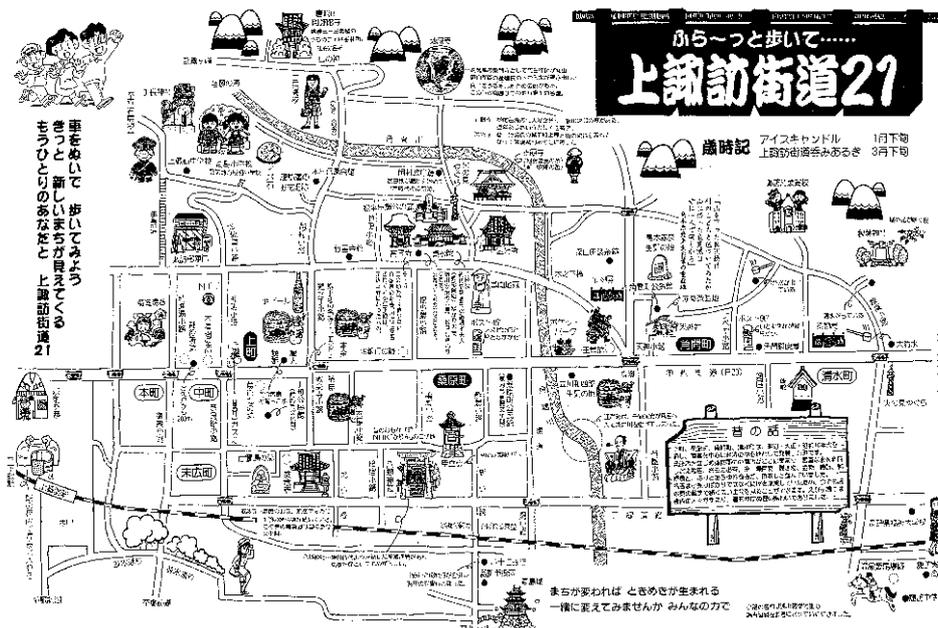
参加者は第 1 回は 2 日間で 147 名 平成 18 年春は 2 日間で 2,500 名



宮坂春樹氏



呑みあるき風景



#### 4 パネルディスカッション

##### 1) パネルディスカッション「魅力ある路地の創造」

諏訪市はもう少し時間をかけてがんばっていく。

山田 : 話を聞いてびっくりしたのは、その場所をかなり大切にしていること。

諏訪市はもう少しかかるが、もう少しがんばれる。  
路地などの小さいところに人が溜まるとか、やすらぎのようなものを中心としたまちづくりが展開されるとうれしい。

路地には結界性がある。こっそり入って楽しむのが一番。

宮坂 : 子どもの頃、小和田や岡村の里山の路地に新しい道を見つけて感動した。確かに原風景の中に路地はある。

路地に入り込むのは生活をのぞき見るような罪悪感がある。公的な道路なのか、私的な道路なのか、他所の人にはわかりにくく、他人の生活の中に踏み込んでしまう危うさを持っている。路地に手を加えることによって、誰でも入れる雰囲気をつくることのできるのかなという気がしている。

小路というものを、まちおこしの中で利用するという発想に至らない

今井 : 第2回大阪サミットで、路地には結界性があることで、安心して暮らせると報告があった。京都の人は、格子越しに入ってくる人の顔をじろっと観察している。

日置 : 住宅地と商業地ではかなり性格が変わるのではないかな。  
気楽に入れる路地になってほしくないという面はある。秘密でこっそり入って行って自分が好きな場所を見つけて初めて路地の魅力が保たれている。  
神楽坂のまちづくりをやっていくときのテーマで、マップをや標識をつくる時、どこまで示すのか、観光で神楽坂が脚光を浴びれば浴びるほど悩んでいる。  
秘密でこっそり入って行って自分が好きな場所を見つけて初めて路地の魅力が保たれている。

今井 : 松代は生活の道に入り込んでくることには相当抵抗があるのではないかな。

石川 : 最初は、人なんか来なくていいと言われた。でも、実はお祭り好きで、最近は雰囲気が変わってきた。普通の家でも、週末になると前に椅子とお茶のセットをおいてご自由にどうぞとやってくれる。週末だけ自分の持っているコレクションを展示してくれるようになった。

外から人が来ることで、自分たちが元気になるとか、なにか新しい発見がある。

今井 : まちぞろぞろ人が歩くという事態は、小和田地区の住民として歓迎すべきことか。

小松 : 地元に住んでいるから知っていて、地元の利用しか考えたことがない。



石川氏・日置氏



小松氏

お堀があって水郷地帯という感じが再現できれば、今のところはそんなに魅力を感じていない。

今井 : 路地に外から入っていく場合、入りたい路地とか、入っていても面白くない路地とか、いろんな感想を持つと思う。諏訪の路地の感想と、非常に特色を持っている向島との比較を。

真野 : 個人的な感覚としては、面白い路地、面白くない路地はある。向島も園芸や昭和何十年代かの雰囲気が残っていて、隠れたブームになっている。

すごく人通りがあるところも、ないところも、住んでいる人は荒らしてほしくない。まちは、住んでいる人だけのものではなく、通っている人、生活している人、お店に来る人全部含めてまち。適度なうまい付き合い方、こっそり入るのが丁度いい。

路地の魅力。表通りと裏通りがセットになってまちの魅力が高まる。

今井 : 路地の魅力は、迷路性とか、秘密めいたところがあるとか、思いがけない発見などの楽しさ。川越はメインストリートの蔵の街並みと裏側の路地の両方を持っている。

勝又 : 川越は蔵づくりの街並みがある通りが観光のメインであるが、まちは一本の道ではなく奥行きというものがあって、表側と裏側をセットである。路地空間まで人を招き入れようと、例えば菓子屋横丁というお菓子屋だけが並んでいる路地を整備している。

川越市で通称歴道（歴史的地区環境整備街路事業？）事業で、石畳の道を整備して路地空間を演出しようという試みをしている。



勝又氏

今井 : 表と裏がそれぞれの役割分担して、まちとして全体的に魅力ができ、深まる。

路地園芸は路地のまちづくりに効果があるか。

今井 : 路地は表通りとは違う作法がある。その独自の工夫の一つとして、路地園芸というのがある。向島の報告によれば道の幅が狭くなれば狭くなるほど路地園芸する人が増える。このおもしろさ、これは大変な発見ではないか。

路地園芸は個人でやっているものだが、みんなでやってまちづくりにつながるのか。北区の公社は、十条の取り組み後を考えているか。

寺田 : 北区まちづくり公社では、路地園芸推進プロジェクトを参考に、美化ボランティアの活動を支援し、地域の方々に身近な花植えからまちづくりに携わる活動を支援している。

今井 : 少なくともインパクトはあったかもしれない。路地園芸は諏訪で使えるか。

山田 : 公道を使って、園芸があふれてくると、行政としてはそれも良いとは言えない。

諏訪では、プランターを使ったものが非常に多い。宮ノ前で花を配って家庭の前に植えていただく取り組みをしている。

今度街路樹を整備するときは低木をやめ、お花畑みたいなものを取り入れ、路地園芸のようなことを公共の場所できたら面白いと思う。

今井 : 神楽坂は、園芸もあり、店もそれぞれしつらえをしていて、ピンコロ石の舗装とマッチしているのが神楽坂の魅力。粋なまちを標語にしているが、自主的にああいうことをやっているのか。



寺田氏

日置 : 神楽坂でいいって言われる路地は、飲み屋などの店の一つ一つが、いかに神楽坂にあった工夫をしてくれるかにかかっている。

神楽坂全部が料亭やお店の路地ではない。熱海湯横丁などは、銭湯があって、普通の飲み屋があって、昭和のまちみたいなものがある。新宿区が、プランターや苗の無料配布しているので、神楽坂地域の住宅街ではけっこう季節毎に花がある。

まちの人が自分のまちの魅力に気づいていない。

日置 : ここのところ神楽坂全体としては良くなっている。神楽坂の良さをわかる外の人が、神楽坂の中に店を作ると、逆に一番神楽坂らしくなる。まち全体が良くなってアピールするとほっておいてもちゃんとしてくれる人が集まってくる。

路地のまちの雰囲気を保つためには、もっと抜本的な問題。特に料亭においては、相続の時に金目的のマンションなどとんでもないものになってしまう。意外と地元の人が神楽坂の良さをわからなくて、相続の時にマンションに売って、1階が自転車置き場になってしまう。

今井 : 地元の人がかえってというのは良くない。諏訪の地元の方はどうか。

五味 : 諏訪の良さをわかっていない人が多いことを感じている。

長野県全体が、大手ハウスメーカーのプレファブ住宅が全国一建っている地域で、これが一番街並みを崩している。文化とか歴史とかを無視したのが多い。

今井 : 地域の方々が、自分たちの持っている資源の魅力に気づかないと、それを守ることもできないし、それを活かすこともできない。外部の目が必要な場合もある。石川さんの取り組みはその辺をうまくコーディネートしているんじゃないか。



五味氏

石川 : 善光寺の表参道がまさにそうで、代々残ってきた家が店を平気で閉めている。善光寺のメインストリートでありながら、一つの通りとしての魅力に対して、自分の店がどうであるかということは一切考えない。自分たちのまちに対して意識を持っていない。

まちづくりは中と外のパートナーシップで。

石川 : 善光寺に藤屋という本陣があった。東京のある会社(リビエラ東京か?)が、建物はそのまま、靴で全部入れるようにして、ソフトは全く変えてバーやレストランをつくって、週末は結婚式場として使って、非常に人が入っている。

常にまちづくりというのは、外のノウハウだとか、ビジネスレベルで、外側の人と中側の人が出会って、お互いに響きあって、何かができる。中側の人は何か結果が見えたときに、初めてこの方向で良かったんだとか、私もこれならできるとか、そういう動きが始まると思う。

今井 : 向島は、真野さんのような外部の人と、向島百花園の佐原さんというユニークな中の人たちがまちづくりを一所懸命やっている。どのようにしてまちづくりをやってこられたのか。

真野 : 向島は、いろんな人たちがパートナーシップを組んで、緩やかな連携もあれば、きつい連携、対立もしながら新しいものを生み出していく、そういうのがうごめいているという場所。大学と地域が対一ではなく、いろんな大学が来て、いろんな研究室も来ている。みんな個人できている。そういういろんなものの中の一つとして自分もある。アーティストも動けば、店もやっている。お互いに縛りあわないが、お互いの動きはよく見ている。それを一つの組織の

もとで何かをやるとそんな風には行かないと思う。

諏訪は諏訪らしいみんなの顔が見えて、新しい力も入って、協調関係で新しいものを作っていく。地域でだいぶ違いが出てくると思う。その最も難しいのが向島だと思う。

今井 : 向島の人は受け入れ能力が高いのか。

真野 : 私もうまく戦略を練ってつきあいを考えている。一回戦略を間違うと入れなくなる。また、相手を見てばかりでもない。外から見えることをきっちり見せないと相手も反応がない。

路地園芸のような何かきっかけがあれば、コミュニケーションもできる。そういう意味では非常に大事なことはないかと思う。

園芸やればどうぞというような補助金はやらない方がいい。むしろ、メインストリートの方に投資する方がいいと思う。路地園芸も路地サミットも路地を見つめていくと、究極は表通りやまち全体のアイデンティティとか、ビジョンとかを考えていく仕掛けだと思う。路地だけではなく、本当に重要な問題を考えながら、表と裏、そういうのもっとやっていくといいと思う。諏訪ではアーケードを取ったりしていて、その辺は私は近いと思う。

今井 : 辻と小径の景観事業は、路地だけじゃなくて通り、辻、いろんな通りを含んでいる。

いろんなきっかけの作り方があ。公共の働きかけや住んでた方が亡くなって代が替わることが契機になることもある。

空堀では、外の不動産屋が空いたところを面白いものに作り替えるというビジネスをはじめていて、全国的には例が少ない様な事象が出ている。

吉野 : 本格的な町屋をマンションに建て替えるという話があったときに、空堀倶楽部が家主に対して、サブリースでこのままでもビジネスモデルをつくれれば税金が払っていけると間に入った。

空堀倶楽部の中に不動産の専門家も入って、家賃収入を保証して、大きな町屋の改造の費用を家主側、借りる側、かつ、テナントの3者が負担する形で一つやっている。

今までに4つか5つの物件をやって、家賃的に幅を持たせて対応している。長屋もある。

最初にできた長屋「惣(そう)」の隣の空家を、2号館として一昨日オープンした。町屋バンクという法人をつくって、そこがサブリースをしている。外部から入って動かしている。

今井 : 外部の力をうまく取り込める可能性もあるということ。

まちづくりにおける事業の活用方法。

今井 : 諏訪市の辻と景観の事業は非常に思い切った、行政側の踏み込んだ事業だと思う。碧南市では行政が路地とかまちづくりに対して、何か支援をやっているか。

金子 : 碧南市では、これから路地をどうしようかと考えていて、今現在路地を支援していない。諏訪市を参考にしたいが、これだけの費用が出せるか問題。

碧南市は住民がなかなか動かない、行政任せである。



今井氏・真野氏



吉野氏

今井 : 諏訪市民が自分たちのまちの魅力を見つけて、それとどの様に付き合うか、具体的な景観の利用を組み立てていく。いくつかの段階を経なければならない。こういうのをうまく動かすことでは真野さんが一番ノウハウあると思う。

真野 : 事業ものは結構難しい。この制度が大事な骨組みとしてできていて、この中でどんな空間を、沿道の人たちが価値なり、財産として共有できるものができるかが大事。

私がここに関わるなら、どういう空間になるかというのをシミュレーションなり、模型をつくったり、いろんなことをやって、出し切ったところで、実現化するところに力を注ぐ。

最初から、難しい制度を作る必要はない。入りやすいものもいい。必ずしも1街路1,000万円まで出さなくても、ソフトの部分は300万円とか、入り方は地域による。これは非常にオーソドックスなもので、誇るべきものではないかと思う。

今井 : これを実際にやっていくとなると、いくつかのステップがある。これからどの様に盛り上げていくか。

#### 文化としての風景

山田 : 辻と小径でやっていこうというのは、今なら私達は頭の片隅に昔の景色を覚えている。それがいいのか、悪いのか解らないが、今は違っていることは確かだと思う。それを新しくするのか、昔を取り戻すのか。その辺ことを今やり始めないと、住んでいる人が解らなくなってしまう。子どもの頃の景色を、今の子ども達に見せておく必要があるのではないか。昔あったもの、何か大切にしてきたもの、今の子ども達に残してやりたい。そこに育った子どもが少なくとも常識を持った子供に育つのではないかという思い。観光地をもう一つ作ろうということではない。

今井 : 昔の思い出をどうするか、モダンとレトロが混じっているところの魅力。伊達さんは、歴史的なものの保存に小うるさい。

伊達 : 技術的には難しくない。難しいのは心。まちづくりをみんなでどうしようかと。

歴史的なまちづくりで気になっているのは、ぴかーの、表通りのちゃんと格子があって、卯建が上がっているところばかり一所懸命やること。B級の歴史的なまちづくりをちゃんとやるべきで、一皮裏の営々と築いて来た生活空間、それこそ路地、それ自体が実は文化だと思う。地域の文化的な風景として育ててほしい。諏訪も国道沿いは、格子が入った立派な家があり、裏に入っても蔵のある立派な住宅を持っていて、これをきちんと文化の風景としてやってほしい。

今井 : まちづくりは総合性、いろんな面からやる必要がある。

#### まちづくりは人

今井 : 神楽坂は、マンションという全くの異物が侵入してくる。その戦いで逆に住民が結束する。マンション様々ではないか。

日置 : 最初に神楽坂通り沿いに10何階が、次に26階が建って、今理科大が20何階のタワーをと、



金子氏



伊達氏

さらに料亭街の真ん中に14階が建つという。実は、全部が1・2階削っただけで実現してしまっ、まちの景観が変わってしまった。

まちづくりのコミュニティ、人のつながりは、連戦連敗であっても負けずに戦ってきたあの人達がいなかったら今日はないと思う。けがの功名というか、次のまちづくりの展開へのものすごく重要。

一つのプロジェクトの成功には、必ずそれを引っ張る人が出てくる。その人についていく人が出たものは、本当にうまくいっている。神楽坂もそういう人が出てこなかった何年間は沈滞していた。成果が見えなくてもがんばっていると、不思議なことに救世主のように人が現れる。

今井 : 上諏訪街道21は主要人物が転職しちゃってあと困っているようだが。

宮坂 : 商業者が中心にやってきたので、人通りを増やしたいということに発想が絞られる。どういう形でも一人でも多く街に来てくれることが、街の元気を取り戻すきっかけになるのではないかと考えて続けた。まちづくりは、そこに住んでいる人や、そのまちを本当に好きな人を集めて、活動したり意見を聞いたりすることが必要だと思う。今の時代、そこまでの精神的な余裕がないのが、各地の商店街の現状ではないか。小布施では景観協議会、建築士の集団、川越では東京の皆さんががんばっている。



宮坂氏

小布施や川越では確かに人は来ているが、一般の商店にはそれほど変化はないのではないかと。人はたくさん来ても客層がまったく変わって、既存の商店をうまくいかせる町おこしは難しい。その辺のジレンマをずっと抱えながら、呑み歩きが発展するとともに続けた。

表通りがあってこそその路地で、路地だけで街の活性化というものを考えるのは難しいと思う。

今井 : 飲んべいいくら集めても家具が売れることはないということ。

川越も商店の人は、蔵をやって潤っていないと思っているのか、儲かっていると喜んでいるのか。

勝又 : 川越の商店は観光客相手ではない。日用品、和服、刃物屋などが並んでいる。観光客をターゲットに街並み整備をやってきたわけではない。

観光客は、東京からの日帰りのおばさんグループが多いので、お金を落とさない。空き店舗だったところに1,000円ショップが入っているが、そういう店が観光客相手となっている。

NPO 蔵の会を立ち上げたときも、住環境に配慮したまちづくりに主眼があった。街並み整備をすれば自然に観光客は増えていく。あえて観光客をターゲットにする必要はない。

今井 : 善光寺は観光客に来てほしい、松代の方はむしろ文化的香りの高い街にしたいと。その辺の思いの持ち方に違いがあるのか。

石川 : 地域は、観光地ではなくてもある程度外の人間が出たり入ったりしている方が健全なんじゃないか。松代は、最初は、多くの方が何をやっているんだという感じだったものが、ドアが少し開いて、風が入って、いきいきしたという感じを持ち始めている。



お酒の呑みあるきに参加して、これは 10 倍面白く出るイベントだと思う。まだ足りない要素はいっぱいあって、素晴らしいロケーションやいろんなものを持っている。

辻と小径の景観づくりを進めていく上で、花とか、塀をそろえとか、ハードとしての統一感もあるけれど、文化的な仕掛けとハードを重ねていく。この地図を見ていて小路の名前がとにかくいい。

例えば、河合曾良が育ったところが舞姫と麗人の間にある。曾良は、俳句をやる人にとっては大変な人。鍵之手小路には晴れた日に俳句の人が座れるような椅子を置いてみたり、酒屋で句会を開けるように座敷を開放したり、俳句をテーマとした界限にするとか。

舞姫・麗人からちょっと来たあたりで、何人もの文学者や画家などいろんな人が出ている地域だと聞いた。信州の中でもこんなに多くの人材を生んだ場所というのはそんなにない。私が諏訪に入った最初のきっかけは、諏訪の生んだたくさんの方のことを知りたくて諏訪に来た。そういう人の物語も、今後の景観づくりに重ねてほしい。

今井 : 諏訪市の景観デザイン委員会は、そういうことをやらなければいけないんですね。

沖野 : 何回かこういう会合や調査があって、みんな異口同音に言うのは、外から見てこんなにアメニティ資源の多いところはないと。中の人はいつも見ているから、よく見えない。こういう企画をして、まちの人が内を見る習慣ができると、まちが良くなるのかなと思う。路地についてちょっと気になるのは、袋小路の路地がたくさんある。自動車が入ってこない非常にいいことなんだけど、何となく小路としての意味が少ないような気がする。これを諏訪市はこれからどうしていくのだろうかという気がする。



今井 : 京都は非常に袋路が多くて、袋路のまちの再生を色々な仕組みをつくっている。最後に、パネリストの方に辻と小径の景観を魅力的にしていくには、どの様に今後進めていったらよいか、提言を一言ずついただきたい。

真野 : この事業は何を整備するかということはしっかり書いてあるが、どういう流れでこの計画を作るかということが、その部分にお金は出せるのか、人間は出せるのかがない。最初の背中を押してくれる景観アドバイザーがいるのかというあたりが見えにくい事業。こういうことができるという部分をちゃんと情報を発信すれば、こんなあったら乗ってもいいかなと出てくるかもしれない。

プランナーが腕をふるう、それを地元の人がやってもいい、NPO がやってもいい、いろんな形が最初の第一歩があって、それにどうマッチングさせるか情報を出していくと事業が生きる。

石川 : ソフトとか一つのテーマ性を持った展開というものが必要。

モデルケースをまずやると、ああいう風にすればこうなると、動き出すはじめにそういうものも必要ではないか。

日置 : どんなまちでもまちをどうにかしていこうとすると、共通点がある。そういう目から見ると、まさに行動だと思う。

商店街の人は、神楽坂もそうだったが、どっかでばかにしている。好きな奴らが勝手に、暇だからやっているんだろうと。今年 80 イベントくらい集めた 8 回目の神楽坂まちとびフェスタ

も、最初の3~5年くらいはばかにされていた。一つ一つ実績を積むと頭の硬い人たちも、これでいいのかと、これに乗った方が得かなと、そういう感じになると一気にいいスパイラルに入る。一つでも形を作って見せつけること。

動くには人。行政の会合では中年以上の男の人ばかり。途中で飽きて落書きしたくなるような話し合いが多い。まちとか暮らしが関わってくることは、やっぱり女性と若い人の発想が入っていないところはだめ。神楽坂がうまくいくときは、いろんな人が集まってきたとき。面白いアイデアができて、誰かが動かす。女性と、若い人が寄ってくるものであれば確実に魅力的なものだと思う。

今井 : 浜松のまちづくりセンターで、そういう仕掛けやっていたが、諏訪でまちづくりを進めるアドバイスを。

大和田 : 我々が必ずやるのは、地域に入って様子を見て、直接女性に声をかける。最初は、抵抗があるので、彼女らと双方向で会話をしていくと、自然と入ってきます。新居の方達には女性の方たくさんいる。まちを歩いていて、よその人がこのまちってこんなにいいところなんだよと言うと、何それと言うことで、それが一人二人増えて、今はあのようになっている。ああなると結構いけると思う。アプローチのしかたを工夫する。



山田 : 本当にありがとうございました。

行政ができることとできないことがあって、若者や女性の方を選んでいただくと、若い女性の方は忙しいからと、なかなか集まらない。

各地の話を見ると、行政ではなくて民間の方々の方が力を持っている。そしてそれがいろんな仕掛けをしてきている。これは、諏訪にはちょっと足りないところだったかなと思う。行政が主体的に今まで動いてきた。

駅前で女将さん市というのが始まっている。これは女性のパワーだけで動かしていて、これが一つのきっかけになりつつある。「ようさた」といって、若い男女が歌を歌いながら地域を活性化していこうということが始まっている。その辺のところとうまくネットワークを組みながらやっていけたら面白いまちになるのではないかな。

諏訪でこんなことをやってみたらとか、こんなこと教えるよということがあれば、是非教えていただいでできるだけいいまちにしていきたい。

私たちが小さい頃見てきた心温まる風景、原風景を構築していく時代にあるのではないかなと思う。育ってくる子ども達が間に合わなくなってしまう。

既にできあがったものしかない時代、コンビニで弁当、そんなようなものばかりになってしまう。昔の遊びとか、そんなものを大切にしていくことが必要ではないかと思っている。

今、こうして、全国で路地サミットがおこなっていることは、いろんなところが活性化に向かって進んでいることでは、決して方向性は間違っていないと思っている。こういうことが日本全国で広がってくれば、自



ずから、全体が動く時が来るんじゃないか。

今井 : 諏訪市の方々、未来は明るいと、とにかく、いろんな取り組みを見ていただければいい。諏訪は資源は豊富で、魅力あるまちができるところです。是非がんばっていただきたい。今日外部から来られた方、だいたいこういうことが好きでお節介な方が多いわけですから、何か諏訪が気に入ったと言うことでしたら、是非力を貸していただければと思います。

## 2) 閉会挨拶 小澤 一郎氏

市長、最後まで付き合っていてありがとうございます。非常に中身の濃い、しかも、非常にいい人選だったと思います。発表の内容も素晴らしいし、シンポジウムの発言それぞれ非常に中身の濃いものであって、今日聞かれてる方々持ち帰るものが多いんじゃないかなと思っています。

何となく祭りとか神様と、路地のまちづくりとかまちづくりそのものとの関係が何となくあるのかなあと思いながら聞いていました。パネルディスカッションの中にもずいぶんそれ

につながる部分が出ているのかなと思いました。それぞれの地域で、まちづくりをいそしむと思いますが、まさに、踊る阿呆に見る阿呆で、見ていると損だと思う。一緒になって楽しむと言うところが今日の神髄ではないかと思います。

次回は新居で、来年、今日この会場にいらっしゃる方は是非来ていただければと思います。第5回の路地サミット、新居でさらに今日の成果が大きくふくらんでいることを祈念いたしまして、今日のパネラーの方々へのお礼も兼ねましてご挨拶に代えさせていただきます。

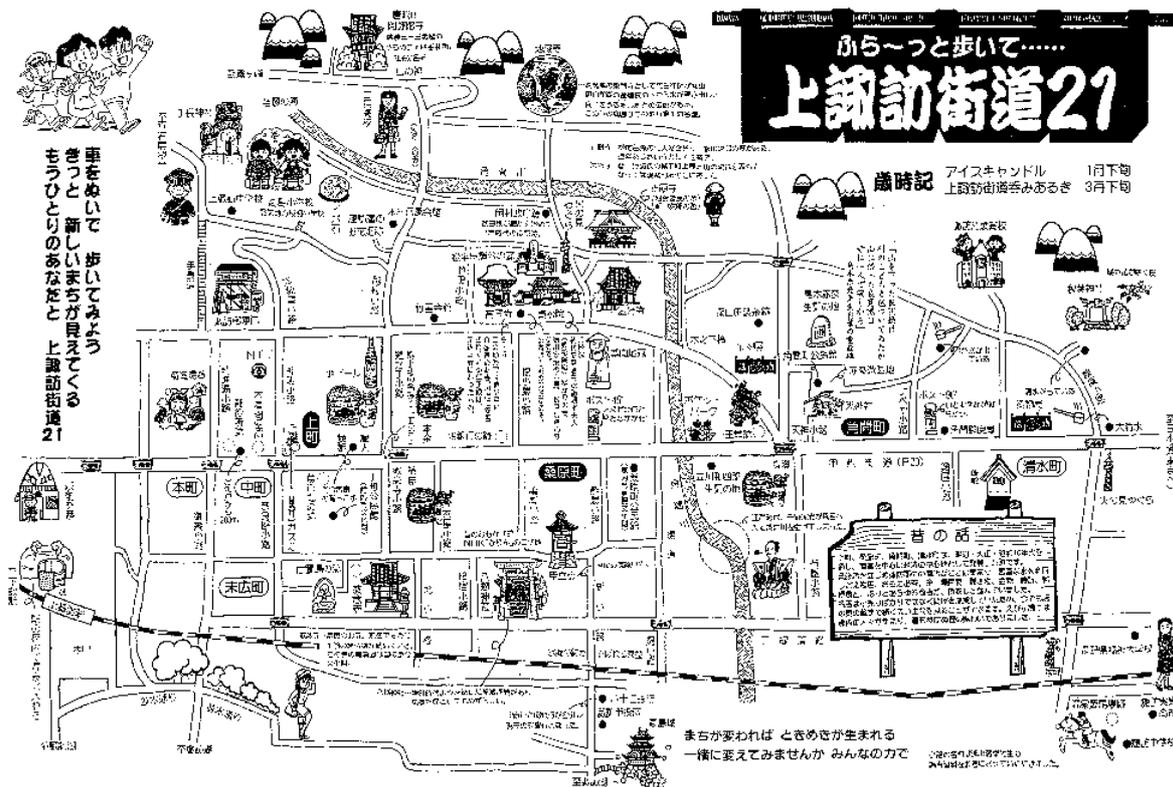


小澤一郎氏

## 5 関連イベント

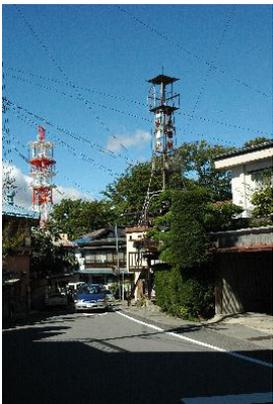
### 1) 上諏訪街道 21 「上諏訪街道呑みあるき」

上諏訪街道 21 が主催する、飲み歩きイベント。2,000 円で枮を購入して、街道 500m に並ぶ 5 軒の造り酒屋を飲み歩く。造り酒屋のほかにも、サービス品が提供される。上諏訪街道の上町（かまち）～角野町～清水町で開催されている。



2) 諏訪路地散歩

「全国路地サミット2006 in 諏訪」に先立って、サミット参加者を中心に約60名が諏訪市の小和田地区を中心とした小路を視察した。

			
<p>山田市長が先頭に立って案内</p>	<p>上諏訪駅前に約60名が集合</p>	<p>表通りはアーケード撤去進行中</p>	
			
<p>コミュニティバスカリンちゃんバス</p>	<p>岡村地区温泉給湯タンク</p>	<p>八劔神社</p>	
			
<p>岡村地区火の見櫓</p>	<p>北小路脇路地</p>	<p>新小路湯小路間の旧水路</p>	<p>田宿小路脇路地</p>
			
<p>北小路共同湯</p>	<p>田宿小路共同湯</p>	<p>湯小路共同湯</p>	

「第4回全国路地サミット2006in 諏訪 報告書」

平成19年3月

発行：全国路地のまち連絡協議会

編集：(株)都市計画同人

〒162-0831 東京都新宿区横寺町58-1 二神ビル

TEL.03 - 3267 - 4147 / FAX.03 - 3267 - 6369